

●○大腸のおはなし○●



●大腸がんによる死亡は増加傾向

食生活の欧米化、高齢化等により全国的に大腸がんは増えており、大腸がんでの死亡者数は50年前の約10倍になっています。今後も増加すると推定されています。40歳代後半から増加しはじめ、この30年で患者数は約6倍になっています。

一昔前までは、胃がんが国民病といわれ、罹患率では第1位でしたが、大腸がんはその胃がんに近づきつつあります。臓器別がん死亡率では、胃がんに次ぎ、第2位です。

●大腸がんってどんな病気？

初期は症状がほとんどありません。進行すると「便に血が混じる・便秘・下痢・便が細くなる・腹痛」などの症状が現れます。肺や肝臓に転移し、咳や黄疸で気づく人もいます。

大腸の中にあるがんやポリープは出血していることが多いといわれていますが、中には出血を伴わないものや時々しか出血しないものもあります。もし便潜血検査の結果が陰性であっても、気になる症状があるならば、医療機関を受診することをお勧めします。

●市の大腸がん検診（便潜血検査）では何がわかるの？

市の大腸がん検診（便潜血検査）では、便の中に血液が混じっているかを調べています。大腸に「がん」や「ポリープ」があると、大腸からの出血がみられ、陽性となります。この検査では、便の中に血が混じっていることはわかって、その原因まではわかりません。結果が陽性だからといって大腸がんであるとは限りませんが、痔からの出血だと思い込んで、詳しい検査を受けないでいると、がんを見逃してしまうこともあります。*「痔」など、便に血が混ざるような症状をお持ちの方は、この検査は適しません。医療機関に直接ご相談ください。

●検診はがん予防のスタートライン

大腸がんは早期に発見し、早く治療を受ければ、他のがんに比べ治りやすいといわれています。また、がんが小さければお腹を切らずに内視鏡でとってしまうことも可能です。早期発見のために、検診結果が陽性となったときには、専門の医療機関で精密検査を受け、出血の原因を確認する必要があります。精密検査では大腸の中を直接カメラで観察したり、レントゲンでできものの影がないか、どこにどんな大きさのものがあるか調べます。

☆大腸がん検診（便潜血検査）で陽性になったら、必ず精密検査を受けましょう！